

'85年を代表する感動の3大作

騎馬は野を圧し将は世を去った 野望か情念か 戦国の炎が親と子と城を焼きつくす。



黒澤明監督作品

仲代達矢
寺尾 聰
根津甚八
隆 大介
油井昌由樹
ビーター
原田美枝子
宮崎美子

エグゼクティブ・プロデューサー・古川 勝巳
製作・セルジオ・シルルマン／原 正人
脚本・黒澤 明／小園 蓉子／井手雅人
製作・（セルジオ・シルルマン）フィルム（仏）

6月1日（土）より公開



熱い心の歌、聞こえますか――



市川崑監督作品

フジテレビジョン・博報堂・キタウチ東宝提携作品

鮮烈な映像と名曲の調べにのせて贈る感動の名作！

ビルマの 竪琴

7月20日（土）より公開

石坂浩二
中井 貴一
北林 谷栄
菅原 文太

原作・竹山道雄／脚本・和田夏十
製作・鹿内春雄／奥本麗志／高橋松男



男の心でおき火が燃えた――女はネオンの匂いを肌に その町へやって来た――。



高倉健・主演 降旗康男監督作品

脚本・中村 努
東宝グループ・エンカウンター提携作品

夜叉

高倉 健／田中裕子／いしだあゆみ／ビートたけし／田中邦衛

8月31日（土）より公開



東宝

東宝株式会社

黒澤明監督の27本目の作品。前作「影武者（昭和55年）」よりも前に、この作品の構想は出来上っていたが、巨額の製作のため、実現出来ずにいた。「影武者」完成後、次回作には、何とかこの「乱」を撮りたいという黒澤監督の執念で、日仏合作により、8年ぶりに実現した。

近隣を平らげ、隣国領主藤巻、綾部とも誼を通じ、70才になった今、家督を息子に譲ることを決め、三人の息子に言い渡した。「一本の矢は折れるが、三本重ねると折れぬ」と秀虎は、長男太郎に家督を譲り、次郎は二の城を、三郎は三の城を、それぞれ守るよう命じた。しかし三郎は、三本の矢を膝にあて無理にへし折り、戦国の世を情無用に生きてきた父が、いまになって、このようなことをする甘さをいさめた。

秀虎は、怒り、三郎と一緒に諫言した重臣平山丹後と共に、三郎を追放した。その三郎は、隣国領主藤巻の婿となる。

三郎の心配通り、秀虎は、太郎とぶつかり、一の城を離れ、更に次郎ともぶつかった。ここから一文字家のすさまじい争いが始まる――。

人間の持つ業、生と死という重厚なテーマを華麗で、カラフルに、そして、大きなスケールと圧迫的な迫力をもって描く、黒澤映画の集大成である。

「はにうの宿」を合唱する一部隊があった。井上小隊長が、兵士たちを励まし、又、荒れすさむ戦場で心をいやすため、歌を教えこんだのだ。そしてたて琴を伴奏するのが水島上等兵だった。8月、激しに入った戦火もおさまり、部隊は英国軍の収容所に入ることになった。しかしひとり部隊から離れて、いまだに抵抗を続ける日本軍を説得するために出かけた水島は、戦いが終わっても帰ってこなかった。死んだのだろうか。ある日、部隊は野外作業中、水島そっくりのビルルの僧侶に出会った。ざわめく兵隊たち。しかし僧侶は何も答えない。人違いなのか、いやそれにも似すぎてない。その時から隊員たちの心の中に、あるひとつの疑問が生まれるよう

「はにうの宿」「荒城の月」「旅愁」などの名曲が全篇を彩り、特に水島が琴を奏でながら戦友たちに別れを告げるラストシーンは、見る人に消えることのない感動を与えてくれるだろう。

としていくのである。

共演は、田中裕子。主人公の内面にしのび寄る不思議な存在感をどう演じるか期待される。又、この女の情夫にビートたけし。どんな未知の展開と魅力をみせるか異色の話題を集めそう

た。そして女優として輝きをまといつゝあるしだあゆみ。さらに田中邦衛、壇ふみ、奈良岡朋子、乙羽信子ら意欲作にふさわしい充実したキャストイングである。

撮影は若峯湾と大阪、ミナミをロケ、荒涼とした日本海とネオンの都会との対比が、目のさめる映像美によつて、人生とドラマを膨らませていく。

また「この『夜叉』を東宝と提携して製作に当たるのが『グルーヴ・エンカウンター』。この『夜叉』一作をつくりあげするために、映画界の枠を超え、さまざまな分野の現場スタッフが集結し、その才能と情熱を注いでいくのである。

今や私達は、8月、日本映画史に記念すべき新たな名作誕生を、待つばかりとなった。